

# 風土記の丘の花だより<sup>173</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2023年2月18日)

少しずつ春に近づいてはいるのですが、やっぱり寒い日が多いですね。でも2月も半分が過ぎました、そろそろ春の兆しが見えてくることでしょう。今回も花が少ないので、つぼみも紹介することにしました。



これはもう咲いていました。コハコベです。風土記の丘では4種類のハコベを確認していますが、これがもっともよく見られるハコベです。茎が紫っぽくて、名前のおり小さいのが特徴です。さらに興味がおありなら、おしべの数を数えてみてください。だいたい3・4本、多くても5・6本止まりでしょう。7・8本もあればミドリハコベかもしれないですね。白くてV字に切れ込んだ5枚の花びらがきれいですね。また、めしべの先が5つに分かれていたらウシハコベです。これは3つに分かれていますよ。



「そろそろサンシュユが咲いたかな」と思って見に行きましたが、まだこんなつぼみでした。修復古墳の左下にあります。少し前までは真っ赤な実がなっていました。もうつぼみが膨らんで、そろそろ咲きそうです。これをご覧になるころには何輪か咲いているかもしれませんね。江戸時代に中国や朝鮮半島から渡来したミズキ科の木です。公園などで「サンシュウ」や「サンシュ」とか書かれた名札を見かけますが、最後の文字は大きな「ユ」です。漢字で書くのは難しいですよ。(変換できませんでした)



万葉植物園に入って左側に大きなつぼみがいっぱいいた木があります。シャクナゲです。去年の記録には「3月31日、満開」とありました。開花までにはまだしばらくかかりそうです。シャクナゲには色々な種類や品種があり、この株は園芸品種かもしれませんが、何という名前のものか私には分かりません。シャクナゲはツツジ科の木で、少し高い山に行くと自生が見られます。花が集まって咲くのでとても大きく見えて華やかです。



谷山家の庭などでヒイラギナンテンが今にも咲きそうです。ヒイラギと付きますが、前半のヒイラギの仲間、モクセイ科ではなく、後半のナンテンの仲間、メギ科です。これもサンシュユと同じく、江戸時代に同じような所から渡来したと言われています。

以上3つのつぼみを紹介しましたが、そろそろ花いっぱいの季節がやってきます。それまで華やかさに欠ける「花だより」になりますが、よろしくお願ひします。 松下